地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	☐ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	なぜグループホームケアなのかということスタッフで確認し合い、スタッフの支援が入居者本位、地域との係わり合いを多く持てるような事を念頭に置いた理念を作っている。	
2	☐ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	1. 入居者に安全で衛生的な場所を提供して家庭生活の延長ケアをして、楽しみのある安穏な生活の継続を提供していきたい。 2. 地域と孤立せず、地域住民の方がいつでも立ち寄ってくれ、交流できる楽しみの場所にしていきたいと思う。 3. 入居者、スタッフが相互に尊重し思いやりを持って、楽しみのある日々を送れるようにケアをしていきたい。 という事をスタッフと管理者が日常的に話し合い実施している。	
3	☐ 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホーム便りを作成し日頃の生活状況や行事等を家族に報告している。又、地域の医療機関、学校、居宅介護支援事業所、行政、包括センター等に理解してもらえようホームの広報誌等を通じ連携を図っている。	
2. 地域との支えあい			
4	☐ 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	小学校教育徒がトイレや電話を借り立ち寄り自然と入居者の方とお喋りをする場面がある。又、近くの田んぼの持ち主が暑いときに『クーラーに入れて』と休憩に来ることが多く、お茶を飲みながら入居者とお喋りしていき、冬に地域の人々が作ったミカンを買ったりしながら地域住民との交流をしている。	
5	☐ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近所の神社の餅投げ、小学校での安原地区自治会主催の消防訓練の参加、あいの里での夏祭りを開催し地域住民の協力や参加をしてもらい共に交流して相互に楽しんでいる。	

あいの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者等の相談窓口を設置し、いつでも対応し地域住民を支えられるような体制作りをしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	グループホームのユニットのスタッフが全員で自己評価を行ない、自己評価をすることによって、新しい気付き、課題を見つけ改善するよう随時取り組んでいる。	○	外部評価で学んだこと、気付いたことを会議の中で取り入れることでスタッフが周知し、より良いケアとなる様に取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会は2ヶ月に1回開催し、グループホームの活動報告、入居者支援の取組み、地域への働きかけ等を民生委員、家族等を交え意見交換をして、管理者会議を通じ日常のケアに反映できるよう取り組んでいる。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村と連携をとり、自施設のケアの方針、ケアする中でのトラブル、介護保険制度について等、常に報告することにより、自施設と市町村との透明性を図っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護事業や成年後見制度を必要とする入居者が居ない為理解できていないが、必要時に行政とも連絡調整を行いながら、実施していきたい。	○	勉強会を開催し、職員の理解を深めその様な事態が起きたときに対応できるように努力したい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者への声掛け、コミュニケーション等が雑になり、言葉の虐待とならないよう常に管理者会議、スタッフ会議も含め話し合っている。		

あいの里

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項説明書、契約書については、入所前に十分説明を行なっている。その際、家族からの不安、疑問点等ヒアリングを行ない納得したうえで入所してもらえるよう支援している。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ホーム内に苦情、ご意見箱を設置しており、投函をしてもらったり、都度、家族の方が訪問時や電話連絡をすることで意見交換を行なっており、チーム内で話し合い入居者の方の日常生活の支援に反映させている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>定期的に家族の方へホーム便り等を発行してお知らせしている。又、入居者個人については日常生活の様子等常に家族に報告する為の連絡体制を設けている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会を実施し、家族等が意見、不満、苦情等話し合える機会を設け入居者の家族との意見交換を図っており、家族等が意見、不満、苦情等あれば、チーム内で解決したり、上司に報告して対応策を考えている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回の会議の中で、スタッフが集まり意見交換を行なっている。又、都度スタッフの意見を管理者が吸い上げ、入居者主体のケアとなるよう心掛けている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>勤務体制は事前にスタッフに休日、勤務時間等の希望を聞き勤務体制表を作成している。又、行事や利用者の状態に変化が現れたケースには、勤務調整を柔軟に行なっている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動時には、スタッフ紹介をはじめとして、異動したスタッフ、入居者が相互に馴染みの関係が築けるよう管理者も含め全員で支援している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>グループホーム連絡会の研修参加、認知症実務者研修実践者研修、リーダー研修、管理者研修等、段階に応じて積極的に研修に参加をし、現場のケアで活かしていけるようにしている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡会の意見交換会を通じ同じグループホームケアに携わるものとしての意見交換を行なっている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>管理者がスタッフと常時話し合いの機会を持ち、スタッフがストレスを溜めながら仕事をしなわないようにしている。又、親睦会を行い、法人全体の職員で話しあう機会を持っている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>自己申告書及び人事考課表を用いて各職員の意見や要望を運営者が把握できるようにしている。また運営者がヒアリングを行ない向上心を持って仕事に打ち込めるよう支援している。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居相談時、利用者本人と面談する場面を必ず設け、グループホームに入所することが利用者の精神的負担とならないようにしてる。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居相談時、家族と面談する場面を必ず設け、十分に情報交換をしたり、日常生活のニーズの把握に努める事により、信頼関係を構築している。又、重要事項説明時できるかぎり家族の方がホームへ面会に来てスタッフ及び入居者とコミュニケーションがとれるよう支援をしている。</p>	

あいの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム入居相談時には、入居者のニーズをとらえながら、グループホーム入所時にリロケーションダメージがうまれないように他のサービスも含めた対応を本人、家族及びケアマネジャーと相談して支援している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族の希望があれば入居前に本人のホームの見学等を受け入れる体制がある。又、入所に際して本人が今まで自宅で使用していた馴染みのある家具、道具類を持ってきてもらい環境を整備している。そして、在宅で過ごしていた環境の継続につとめている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に生活を送るという観点から、スタッフが入居者の方に家事、農作業のこと等教えてもらったりしながら相互で支えあっている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	都度、家族の方と連絡をとりスタッフと家族と一緒に一人の入居者を支えていけるよう入所時に家族に説明して納得してもらい、協力して頂いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	疎遠の家族に関しても、グループホームに入居することにより、互いに本人との関わりが増えたり、日常生活の生活場面の報告を家族にすることで修復できるようスタッフから家族に働きかけている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友人等がホームに訪問した際には、ゆっくりと部屋でお茶を飲みながら過ごして貰えるようにしている。その為、訪問者も多くなっている。又、本人が望まれたときは、住み慣れた家等にもスタッフと一緒に行くことがある。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士が日常生活を過ごす中で、車イスをついたり、一緒に横について歩行したりしながら相互に支えあえるようにしている。また、意思疎通が難しい場面でもスタッフが介入し、お互い支えあい交流できるような声掛けを行なっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスが終了しても継続的に関われるよう、入所前の担当ケアマネジャー等と連絡を取り合い関係を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人及び利用者家族と十分にコミュニケーションをとり、本人及び家族の要望・希望を聞き取り、利用者本位となるようマネジメントを行なっている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人の生活歴や、生活スタイル等の把握に努めている。又、入所後においても家族等からの聞き取りの中で今までの暮らしを継続できるように介護計画に反映させている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	残存機能を十分に活用し、過剰介護とならないようできることは自分でしてもらえような声掛けを行なっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	主治医の意見も聞き入れながら、本人、家族、職員と話し合い健康、衛生、安全等に配慮した計画を作成するよう心掛けしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月1回のケア会議での話し合いや日頃のケアの中で職員の気づき等で本人の状態の変化等を話し合い、またセンター方式でのチェック表に記入しプランの見直し等を行なっている。又、利用者には急変が生じた時は、家族等とも話し合う機会を持ち協力し合いながらプラン作成を行なっている。		

あいの里

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケア記録、申し送りノート、センター方式のチェック表、ヒヤリ・ハットノート等を利用し職員間で情報を共有し日々の実践や介護記録の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスの行事ごとや地域交流スペースの筋力トレーニング機器を使用しての運動等他のユニットのサービスを利用したりしながら、そのの利用者、スタッフと交流している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進委員会への地区民生委員、自治会からの参加や地域の消防による消防訓練、駐在所からの適宜の巡回、小学校の生徒からの訪問や、ホームからの地域の消防訓練等へ参加をしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者の意向や必要に応じて、地域の医療機関、福祉事業者、ケアマネジャーと話し合い他のサービスを利用できるよう支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在、権利擁護事業等利用している入居者は居ないが、入居者の状態に応じて生活保護の方のオムツの支給等の利用手続き及び面接や、地域の一人暮らしの高齢者の支援方法等、地域包括センターと連携をとっている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望される主治医の定期的な往診または、他の専門医の往診等積極的に受け入れられるように支援している。		

あいの里

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	介護記録、個人の情報等は職員以外取り扱えないようにしている。又、入居者の対応については各個人の人間性の理解把握に努め誇りやプライバシーの損ねないような声掛けや対応、コミュニケーションを行なっている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	常に、入居者が自己決定を行なえるよう、声掛け、日頃のホーム内での雰囲気作り等、スタッフで話し合っている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースで日常生活を送ることを目標としており、入居者本位となる様、スタッフで気をつけながら声掛けを行なっている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	認知症が進行し、自らの意思で洋服を選択できない人も多くなってきているが、洋服を2種類出して声掛けをしながら選んでもらえるよう工夫している。又、自分で選択できる利用者の方には、持っている衣服等の中から着たい服を選んでもらい、スタッフで身だしなみ等支援するようにしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材、行事を大切に、盛り付け、後片付け等できる入居者の方には手伝ってもらい、一緒に作業しながら、会話を楽しみ食事している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物、おやつ、果物等も色々用意し日替わりで楽しんで頂いている。又、現在はいないが煙草、お酒等日常生活に取り入れ楽しみたい入居者には対応できる様にしている。	

あいの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	羞恥心を伴い日常生活の支援に抵抗のある入居者の方もいるが、個人のペースにあわせ失禁の軽減が出来るよう心掛けている。又、プライバシーに配慮し誘導、介助等声掛けを行なうようにしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の意向により、毎日入浴した方には入浴できるようにしている。又、スタッフが入居者の入浴したい時間帯、温度等の希望を聞き、把握しながら入浴支援をしている。夜間入浴希望の入居者いる場合においては、本人の希望を尊重し、夜間入浴することもある。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者の生活習慣にも配慮し、適度な休息をとりながら、メリハリのある日中を過ごし、夜間眠れるようにしている。又、眠れないときには、スタッフとお茶を飲んだり、会話をする事で気分が落ち着き、安眠できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の趣味、出来ることなど把握し各人の状態に合わせて声掛けや意欲を引き出せるよう支援方法を工夫している。	○	買物、花作り、土いじり、歌を歌ったり、聞いたり、掃除、洗濯物たたみ、食事作りの協力等、日常生活に楽しみを持ちながら生活して頂いている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭によるもの取られ妄想、失くすという行為があるため、ホームが立替で、必要時にお金を本人に渡すようにしている。又、金銭に執着心がある入居者の方には、5,000円程度のお金を所持してもらうようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	出来る限り外出、外食等の機会を増やし、散歩、買物、ドライブ等で外へ出て行く機会を増やしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月に1回の外食、花見や地域の行事ごとドライブ等、職員や家族の会等で相談、協力し希望の所へ外出する機会を作っている。		

あいの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいときは事前に家族にかけられる範囲を確認してもらっているのでかけていただいている。手紙のやり取りは、本人の身体状況により、書けないときは利用者に聞き取りしスタッフが代筆、投函している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居心地良く過ごして貰えるように茶菓子を出したり、入居者の普段の様子を伝えたり本人と家族だけで過ごせる時間を作ったりしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行なっていないといけないということはスタッフは理解しているので、日頃の会話やケア会議のときに話し合う機会を持っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることへの利用者の精神的ダメージをスタッフは理解しており、鍵はかけていない。入居者がひとりで外に出たりすると、他の入居者が教えてくれたり、スタッフが気を付け合ったりしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は入居者全員がどこにいるか把握できるよう職員間で確認するようつとめている。職員の目の行き届かない死角の部分も多いため、随時見守り等を行なっている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の服薬は施錠できるキャビネットに保管できるようにしている。そして、必要時には、スタッフが利用者の名前を呼び、手渡しするようにしている。又、洗剤・漂白剤については鍵のかかっているところにおいている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止マニュアルを基本に、事故発生時緊急な対応を行なっています。事故報告書をもとに事故再発しないよう検討会を行ないスタッフに周知徹底しています。		

あいの里

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアル本を基本にスタッフが知識を得るように努力し状態の急変時の連絡方法は手近に置いてあり、会議等で話し合っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防士がホームに来て防災の勉強会を行なって定期的に防火訓練を行なっている。今年度、地域の自治会の消防訓練に参加することで、今後地域の住民の協力も得た消防訓練を実施していくつもりである。	○	今後、地域住民の消防訓練への参加・協力を働きかけ、行なっていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時に起こりえるリスク等を十分に家族と話し合い、事業所側と家族の意思疎通を図っている。面会時や電話にての連絡においても話し合いを行なっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日頃から定時にバイタルチェックをし普段と変わりがあれば随時検討し連絡ノートに記録を残し申し送り等行なう事でスタッフ同士意思疎通を図っている。又、必要時には主治医・家族への連絡も行なっている		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示通りに服薬できるようスタッフに十分気をつけるように話し合っている。又、服薬の作用、副作用についての情報をもらい様態の変化に気をつけている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘にならないよう十分な食事、水分を摂ってもらうようにし水分を取らない入居者の方も多く取れるよう注意している。又、個々に応じた運動をする事により排便のコントロールを心掛けているが、自然排便につながらないことも多く薬剤使用による排便コントロールもしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自立して歯磨きができる人はもちろんの事、自分で出来ない人、声掛けしなければいけない人等には毎食後口腔ケアの支援、声掛けをし口腔の清潔保持の支援を行なっている。		

あいの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算等を行っていないものの栄養面を考慮し、入居者の意見を聞きながらメニューを立てている。又、水分補給を促す声掛けを行ない脱水症状をおこさないよう心掛けている。食事量が少ないときは捕食を用意する等配慮している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防マニュアルを作成し、日頃からの手洗い等徹底し予防に心掛けている。	○	今後対策を強化する為、施設内研修を実施していきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	新鮮な食材を購入、新しいうちに使用している。調理用器具、シンクについては塩素系洗剤を使用し適時きれいになっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	四季を感じられる木や花を植えたり入居者と花や野菜を作ったり、玄関先にベンチを置いたりして開放的で出入りしやすい空間作りをしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、居間においては季節感や入居者の手作りのものを置き家庭的な温かみを出している。又、トイレにも、家庭的な温かみを出すため、装飾品を置いたりして少しでも近づけるようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室にはコタツ、リビングにはソファ、テレビ、ラジカセを置き所々に寛げる空間を作り、入居者が自由に過ごせるように配慮している。		

あいの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、家族の協力により本人の馴染みの道具等を持ってきてもらい本人の混乱につながらないように配慮している。又、室温等も本人の快適な温度に設定し安心して過ごせる場所にと努めている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝、随時リビング、各個室の換気を行なっている。エアコン、床暖房も気温にあわせて調整し自然に近いように環境に配慮している。夏場は、スタレを利用し季節感も大切にしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各個室には入居者の身体機能に合わせてポータブルトイレを置いたり、低床ベッド、椅子を置く等して利用者の方が自立して生活しやすいようにしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	認知症の進行により錯覚、誤認等見られるがさりげなくスタッフが声掛けする事により混乱を招くような状態には至っていない。又、家庭での日常的な作業をスタッフと一緒にする事で日々を活性化している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物周辺には花壇、玄関にはベンチを置き景色を眺めながらティータイムを楽しんだり、中庭には物干し場、鉢物等を置き入居者にも洗濯物を干したり、花への水やり等を楽しんでもらえるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

あいの里

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	☐	①ほぼ毎日のように
		☐	②数日に1回程度
		☐	③たまに
		☐	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	☐	①大いに増えている
		☐	②少しずつ増えている
		☐	③あまり増えていない
		☐	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	☐	①ほぼ全ての職員が
		☐	②職員の2/3くらいが
		☐	③職員の1/3くらいが
		☐	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	①ほぼ全ての利用者が
		☐	②利用者の2/3くらいが
		☐	③利用者の1/3くらいが
		☐	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	①ほぼ全ての家族等が
		☐	②家族等の2/3くらいが
		☐	③家族等の1/3くらいが
		☐	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

1. 入居者に安全で衛生的な場所を提供して家庭生活の延長ケアをして、楽しみのある安穏な生活の継続を提供していきたい。
2. 地域と孤立せず、住民の方々がいつでも立ち寄ってくれ、交流できる楽しみの場所にしていきたいと思う。
3. 職員、入居者同士がお互いを尊重し思いやりを持って、楽しみのある日々を後れる様にケアをしていきたい。